あとがき

後味がいいということは、嬉しい。それが人だと、ちょっとした仕草をまねてみたくもなる。うろ覚えで恐縮だが、好きな川柳に

一ト村を粋にして立つ旅芝居

というのがある。イキとかハヤリに関係のないような農村に芝居がかかる。昔は旅回りの役者がこうした都会風をもたらしたのだろう。役者の名を書いた幟がはためき、しゃれた色の着物を着た役者が出入する。村中が浮きうきしている。一晩か、二晩かの興行かも知れぬが、彼らが立ってしまったあとでも、手拭いのかぶり方、キセルのくわえ方からして、皆なんとなくイキにみえる．．．．．。

読み物でも、いい旅行記にあたると、ついこの間まで著者と一緒にそこにいたような気分になる。自分もこんな風に書けたら、と思ってしまう。この前の号に出ていた川合さん（東芝）のマラソン大会参加記もなかなか面白かった。休日の早朝、家人、主人の心根をおもんぱかり「寝静まるふり」をしていたのではなかろうか、と想像するだけでも楽しい。この大会、学会も併せて開かれたそうで、第10回世界選手権大会ともなると、さすがに格調も高い。それにしても川合さんと並んで写っているドイツ人の若々しさにはびっくりしてしまった。とても80歳を越しているとは思えない。マラソンをやっているからそうなのか、核データで苦闘しているから同じに見えるのか．．．．．。

続編を期待したい。と同時に、本誌に載るさまざまな会議参加記や話題も、是非このような肩の凝らない楽しい読み物にして頂けると嬉しい。　　　　　　　　（喜多尾憲助）

核データニュース編集委員会

中川　庸雄（委員長、原研）、浅見　哲夫（データ工学）、井頭　政之（東工大）、喜多尾　憲助（データ工学）、柴田　恵一（原研）、高野　秀機（原研）、吉田　正（東芝）